

木村昇吾さん出場 愛院大出身、広島などで活躍

中国・杭州アジア大会のクリケット男子で、元プロ野球選手の木村昇吾さん(43)が愛知学院大出身で日本代表として初出場している。「日本のクリケットのために強豪国に挑みたい」。初戦を白星で飾り、1次リーグ突破を目指す。(杭州・磯部愛)

杭州アジア大会

クリケットで再び勝負 元プロ野球選手



杭州アジア大会クリケット男子1次リーグのカンボジア戦に勝利し、笑顔を見せる元プロ野球選手の木村選手(中央) 中国・杭州市で(伊藤遼撮影)

クリケット 英国発祥のスポーツで、1チーム11人で試合する。長さ約20メートルの長方形のピッチに「ウィケット」と呼ばれる棒が地面の両端に立てられ、投手は棒を倒すために球を投げ、打者は倒させないように板状のバットで打つ。打球で棒が倒れたり、打球をノーバウンドで守備側が捕球したりするとアウトになる。打球が返球されるまでに反対のウィケット側へ打者が到達すれば得点となる。10アウトが規定投球数(アジア大会は120球)で攻守交代。

「面白さ知ってもらうため勝ちたい」

9月27日にあった初戦のカンボジア戦は守備のみの出番だったが、最年長メンバーとして声で味方を鼓舞した。プロ野球からの転向は異色。広島などで733試合に出場し、全内野を守れる万能な選手として活躍した。転向のきっかけは2017年の西武からの戦力外通告。悩んでいると、知人から野球の原型とされるクリケットの存在を教わった。

映像で何となくしか見たことがなかったが、世界の競技人口がサッカーに次ぐ2位といわれ、インドに30億円を稼ぐプロがいることを知った。「野球のスキルが生きる唯一のスポーツでは」。自身の活躍する姿が直感的に浮かんだ。

だが前方以外に、横や後ろにも打てるルールに最初は困惑。それでも野球で培ったバットを振る力や、内野手の経験が役立っている。「野球より、自由なところが難しくて楽しい」という。18年から、オーストラリアなど海外でトレーニング経験も積んできた。

だが競技での収入はゼロ。ユーチューブで普及活動をしながら、プロ野球の解説などで生計を立てる。ただ28年ロサンゼルス五輪の追加競技候補に浮上しており、「プロ化などにつながれば」と期待する。

準々決勝進出を懸け、1日の香港戦に臨む。「いろんな人にクリケットの面白さを知ってもらうため、勝ちたい」と笑顔で話した。